

戦後日本の経済、政治、国際関係を照らす新史料

オンライン版

大来佐武郎関係文書

日記・手帳・ノート 1936-1993

原本：政策研究大学院大学図書館所蔵

解題：浅井良夫（成城大学名誉教授）



戦後を代表するエコノミスト・経済官僚、大来佐武郎（1914-1993）の未公刊の日記、手帳、ノート200冊以上を収録。1930年代から90年代まで、大来がそれぞれの要職で参加した国内外の会議要録をはじめ、海外出張時の詳細なスケジュール、各国要人との会談内容等が丹念に記された第一級の史料群。

出版・発売元：丸善雄松堂株式会社

「政策の巨人」の活動に迫る

政策研究大学院大学教授 飯 尾 潤

後世の人は代表的な肩書きで人物を判断しがちである。大来佐武郎は外務大臣を務めたから、政治家だったと思われるかもしれない。しかし、調べれば、通信省、大東亜省、外務省、経済安定本部、経済企画庁などで活躍し、大来は官庁エコノミストの代表と目されていたことがわかる。退官後は、幅広い国際的人脈をもとに国際経済協力や地球環境問題などに取り組み、日本を代表する知識人となった。外務大臣になったときも、民間の知識人が大臣になったと認識されていたのである。

大来佐武郎は、まさに「政策の巨人」である。その大来が残したノート類がオンラインで公開されることになった。大物官僚や政治家が残す記録は、宝を探し出す楽しみ

があるとはいえる、不揃いの記録であることが多い。ところが大来は、几帳面な性格もあって、時期的にも一貫した記録を、仕事のテーマによって区別したファイルの形で残している。その意味で、原資料になじみの薄い研究者にとっても使いやすい資料だといえよう。また、国際会議などに出席したときには、会議のプログラムや出席者一覧も同じノートに綴じ込み、各人の発言が丁寧にメモされるなど、その場を彷彿とさせる豊富な情報量のノートが多数存在する。これなど、なかなか運営の様子がわからない会議の実態を知りたい研究者にとっては宝の山といえよう。昭和期の政策問題について調べるのに必見の資料が便利な形で公開されることを喜びたい。

大来佐武郎—国際派エコノミスト

早稲田大学教授 池 尾 愛 子

経済学の歴史を眺めるとき、エコノミストという職業の社会的位置づけが高まつくるのは第二次世界大戦中とそれ以降のことであった。大戦後、アジア・アフリカで多くの国々が独立し、それに伴って国際経済会議が増え、加えて、国際通貨基金（IMF）、世界銀行、経済協力開発機構（OECD）などの国際機関が国際経済関係構築の上で大きな役割を果たすようになってきた。こうしたグローバル化の進行とともに、政府エコノミスト集団が誕生したのである。

大来佐武郎は戦中戦後日本の経済官僚集団の人であり、国際舞台においては「日本の優秀な官僚組織」を代表するエコノミストであった。大来は英語を流暢に話し、アメリカで標準的になった経済学を理解した。後輩官庁エコ

ノミストの故宮崎勇元経済企画庁長官いわく、大来は「ついに日本人の立場に立って海外に対して物をいい、日本の国際的地位の向上に努めた」と同時に、「日本におけるエコノミストの社会的地位を引き上げるのに貢献大なるものがあった」。

大来は経済官庁、民間経済人、学界との協力関係を作り上げ、重要な経済論議が行われた現場の多くにいて、調査と意見調整の両方に努力した。彼は多くの報告書を執筆し、重要な経済計画を起草し、何よりも重要なことに自らの行動についてかなり正確に書き記した。だからこそ、公表資料に到る舞台裏が気にかかることがある。今回の関係文書が光をあててくれることを期待したい。

「一身にして二生を経る」—日本と世界をまたいだ時代の先駆者

東京大学教授 佐 藤 仁

日本の過去200年を振り返って、「時代の転換期」とはつきりいえるのは明治維新と第二次大戦の終戦であろう。それぞれの転換期には、まさに新旧二つの時代を駆け抜けた知的リーダーの存在があった。明治維新をけん引した一人である福沢諭吉は、つい先日まで漢学者であった自分が、突如として洋学者になった経験を振り返り、あたかも「一身にして二生を経る」と総括している。

大来佐武郎は、戦前から戦後への転換をけん引した人物であるが、その本領が發揮されたのは戦後日本の国際化の文脈においてであった。大来の人生は国内経済の立て直しに尽力した1950年代前半までの時期と、発展途上国の開発や援助に力点を移動する1950年代後半以降で大きく転換する。経済安定本部に務めていた時代の彼の関心は、日本経済の自立化であった。1955年に経済審議庁（のちの

経済企画庁）の初代経済協力室長になってからは、日本の国際的な関与へと関心が広がる。

福沢は言った。「二生を経る」とは単に二つの世界の知識を吸収することではない。むしろ、二つの知識が互いに照らし合せられて、より確実なものになる点が重要だ。大来も世界を知っていたゆえに日本を憂い、日本を知っていたからこそ世界で仕事をすることができた。この複眼思考ができる人材を歴史の偶然に任せのではなく、教育機関たる大学が積極的に生み出すにはどうしたらよいか。このたび公開されるデジタルアーカイブは、この悩みに答えるアイディアの宝庫である。大来の資源政策や開発援助に関する「二生」を辿ることのできる資料が身近になったことで、私自身も研究を大きく前に進められそうだと今からワクワクしている。

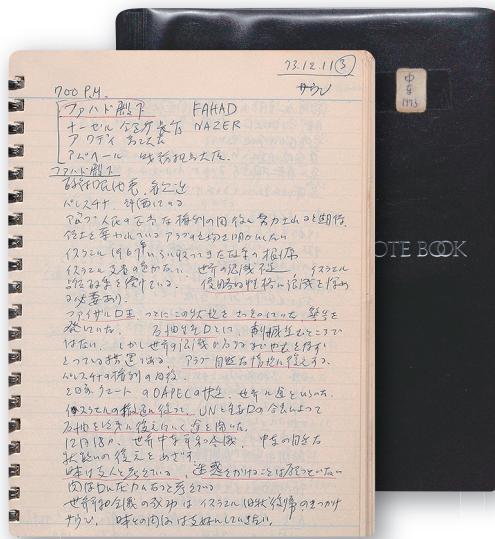
国内経済から国際関係まで—多岐にわたる活動の記録

占 領 期

11月29日(金)
12.30、外務大臣会、経産、農林、和田、白川、有次、
東郷、塙、内田、大東、半斗
有次より34万通と現行規制実施12/12 説明
米ぬかの日本内陸運送会社が申請されかつてあること、
理田の太田洋蔵が申す。昨年一年間に日本各地の危機。
事務局より進歩党自民の検査を書いて来たこと
授業される。
近頃より月曜日M、12全員からこれがまた、检测の危険入
の件についても一言書くように命じて貢

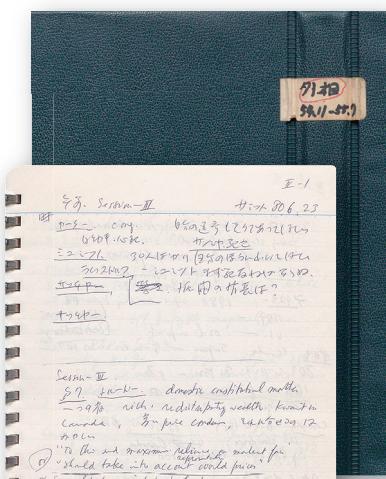
1946年11月29日条〔有沢氏より(出炭)
3千万トンと現下の経済危機について報告…〕
(「日記帳1945~49」所収)

中東／石油危機



1973年12月三木中東特使・ファハド副首相会談要録 （「中東1973」所収）

ヴェネチア・サミット

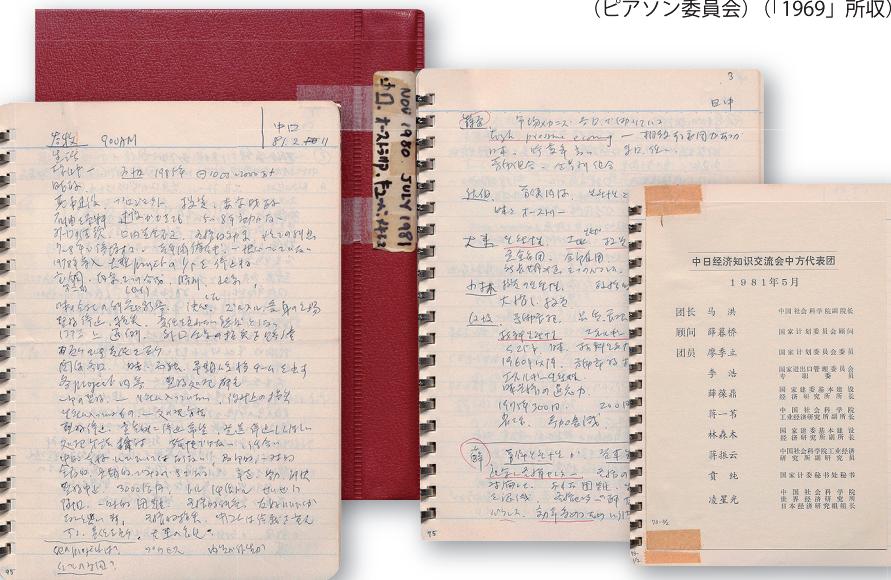


1980年6月ヴェネチア・サミット
(「外相 54.11-55.7」所収)

3月24日(月)
午後、便り到り呼出し、高橋長官より外へ協力者と会見
会議招集し相談を実行。マフフ → 木田書類
democratic and efficient control
の必要、日本政府の責任。22時半
地元、御内閣は國會に賛成を呈上する。
他、海軍軍事の結果などは如きはなし。
20時半、如意園。
私、1929年1月20日付にて退院。一日28日。
今後監視は本院にては出来ない。
今日皆の意見を聞き、中間監視しない。
27日、貴重な手録、政治的問題へ。27日付。
引渡しは12月15日をもつて終了する。
4.7.0 部局へ。終
紙箱有。

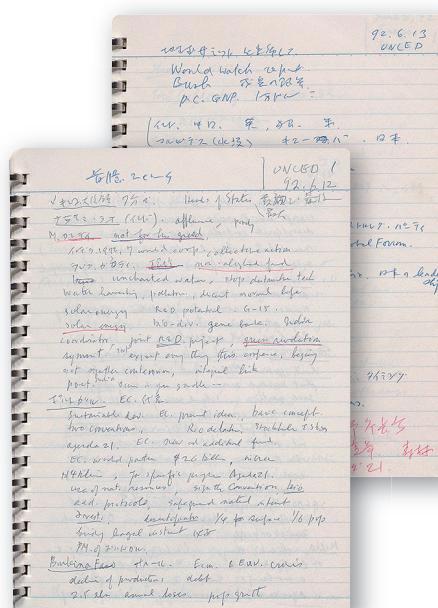
1947年3月24日条 [午前、総理より呼出し…]
（「日記帳 1945～49」所収）

目中関係



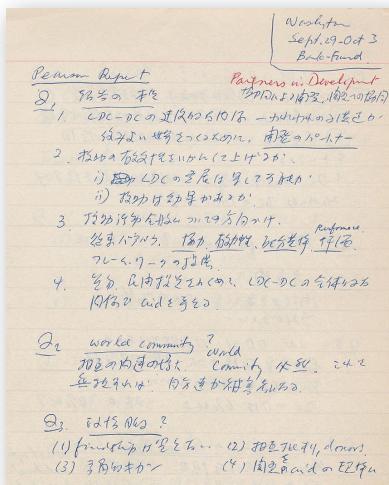
左：1981年2月 大来・谷牧副首相会談要録／右：1981年5月 日中経済知識交流会（「Nov1980 July1981 中國、オーストラリア、キューバ、メキシコ」所収）

地球環境問題



1992年6月国連環境開発会議 (地球サミット) (資料番号 23-112 所収)

開発援助



1969年9月国際開発委員会 (ピアソン委員会) ('1969' 所収)

大来佐武郎関係文書

日記・手帳・ノート 1936-1993

大来佐武郎（1914-1993）が半世紀にわたり残した日記・手帳・ノートを完全収録。1930年代から90年代まで、大来が要職についていた全時代をカバーし、その数は200冊以上にのぼる。大来がそれぞれの要職で参加した国内外の会議要録をはじめ、生涯300回以上に及んだ海外出張のスケジュールや各国要人との会談内容等が詳細に記録された第一級の史料である。大来は長期にわたり多方面で活躍したため、戦後日本の経済、外交に関する内容はもとより、人口、エネルギー、南北問題、ODA、地球環境問題など、多岐にわたるテーマを含んでいる。長年遺族の手許で保管され、近年、政策研究大学院大学図書館に正式に寄贈された。

「近現代史料データベース」の他のコンテンツとの横断検索も可能。

オンライン版 大来佐武郎関係文書

日記・手帳・ノート 1936-1993

原本：政策研究大学院大学図書館所蔵 解題：浅井良夫（成城大学名誉教授）

価格 ¥400,000（税別）

プラットフォーム：J-DAC ジャパン デジタル アーカイブズ センター
完全買切型（ご購入後のプラットフォーム利用料、年間維持費用は不要です）
<1ヶ月の無料トライアル受付中、お申し込みは kenkyushien@maruzen.co.jp まで>

収録内容

大来佐武郎日記・手帳・ノート 1936（昭和11）年～1993（平成5）年

好評発売中

近現代史料データベースは横断検索が可能です

オンライン版 三木武夫関係資料

全四部 価格 ¥2,400,000（税別）

第66代内閣総理大臣をつとめた三木武夫（1907～1988）が残した膨大な文書群。戦前の三十歳での議員当選にはじまり、自民党幹事長・政調会長など党内の要職をつとめ、経済企画庁長官、通産大臣、外務大臣、副総理兼環境庁長官も歴任した三木。本資料は、三木が残した、国会答弁資料、外交資料、省庁・党内資料など各種政策資料、総裁選・選挙関連資料、講演・演説原稿、日記・手帳・書簡・メモなど大量の一次史料で構成され、まさに一級の史料群である。

オンライン版 楠田實資料（佐藤栄作官邸文書）

全二部 価格 ¥800,000（税別）

戦後最長の佐藤栄作政権（1964～1972）を支えた首席秘書官 楠田實が残した未公開官邸資料。外交から内政まで第一級の極秘資料で構成される、事実上の「佐藤栄作文書」。

オンライン版 大平正芳関係文書

価格 ¥400,000（税別）

第68・69代内閣総理大臣をつとめた大平正芳（1910～1980）が残した膨大な文書群。大平正芳自筆の日記・手帳から、書簡、外務省や通産省などの官庁資料、国会答弁・演説用の原稿資料、選挙関係資料、さらには大平の回想録執筆にあたって行われた政財官の重要人物へのインタビュー記録など、膨大かつ多様な原史料で構成。

オンライン版 矢部貞治関係文書

原本：政策研究大学院大学図書館所蔵

価格 ¥400,000（税別）

戦前戦後を通じて現実政治に深く関わった政治学者・矢部貞治（1902～1967）の旧蔵資料。矢部の自筆資料や書簡のほか、戦前から戦後にかけて関わった諸団体——昭和研究会、海軍省・海軍大学校、憲法調査会、行政審議会、公安審査委員会、選挙制度審議会、明治百年記念準備委員会などの内部資料で構成。

オンライン版 矢部貞治関係文書 補遺

原本：矢部家所蔵、衆議院憲政記念館寄託

価格 ¥270,000（税別）

大正10年～昭和42年までの『矢部貞治日記』の原本やノート等の自筆資料のほか、矢部の手元に残された戦前・戦中の原史料群も収録。